

八王子千人同心日光往還ウオーク

第18回吹上駅から秩父鉄道行田市駅（計画）

集合 JR高崎線吹上駅改札口 午前10時

歩行距離 約10.5km

第18回吹上駅から秩父鉄道行田市駅

実施日 2023（令和5）年2月8日（水） 天候 晴れ 暖かい

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

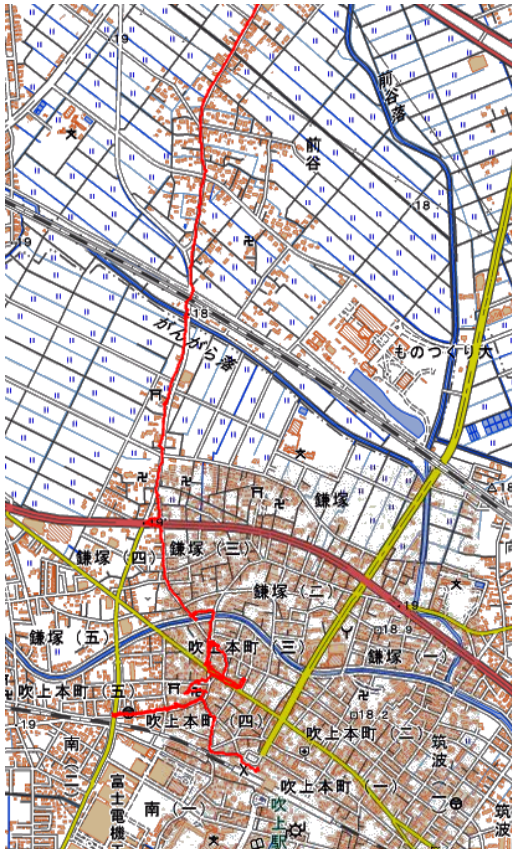
コース 吹上駅（9：49）～JR松山街道踏切（9：52）～中山道平成の道標間の宿（9：59）～吹上神社（10：04）～東曜寺（10：06）～いぼ地蔵尊（10：10）～中山道道標（10：12）～明治天皇御駐輦址碑（吹上茶屋本陣跡）（10：23）～元荒川・佐賀橋（10：29）～新佐賀橋（10：30）～行田馬車鉄道・忍松山路線・日光脇往還～本倉稲荷（10：43）～がんがら落（おとし）・がんがら大橋（10：48）～バイパス手前・休憩（11：08～15）～前谷落～新兵衛地蔵常夜燈（11：23）～遍照院（11：28）～「めんはうす健」昼食（11：37～12：12）～水城公園（一周700m）～御三階櫓跡（12：28）～足袋蔵（現行田窯）（12：42）～高源寺（12：46～52）～佐間天神社（12：53～58）～天満口御門跡（13：01）～足袋蔵（奥貫蔵）～八軒口御門跡（13：08）～新兵衛橋～清善寺・新兵衛地蔵尊（13：15～26）～行田八幡神社（13：30～35）～秩父鉄道行田市駅（13：45）。13：56発で熊谷へ向かう。

写真は2019（令和元）年9月20日と10月1日と本日のものを使用。

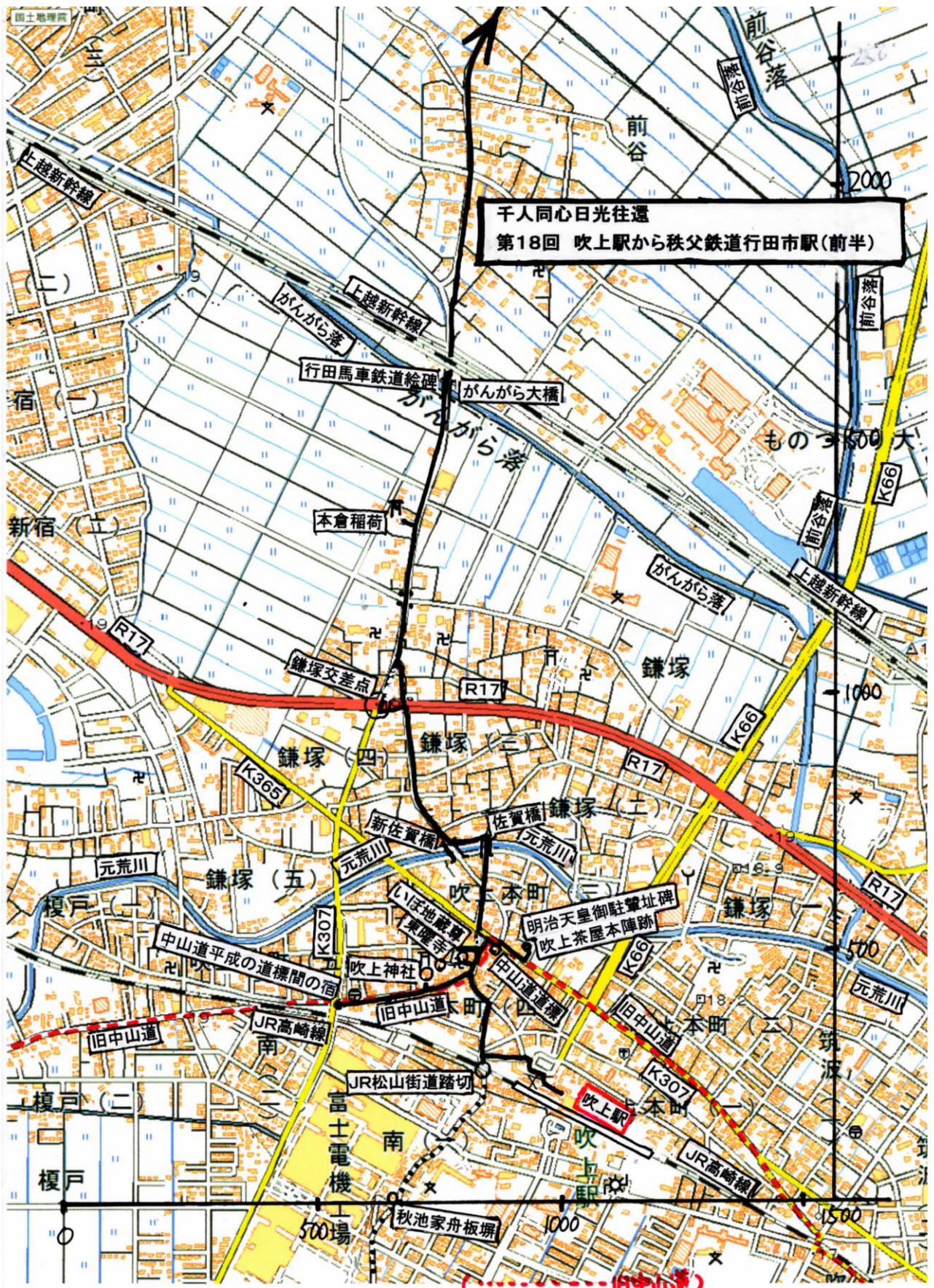
GPS 歩行距離：9.7km。 累計歩行距離 168.8km。

全体所要時間：3時間57分。移動時間：2時間51分。停止時間：1時間06分。

移動平均速度：3.39km/h。全体平均速度：2.44km/h。



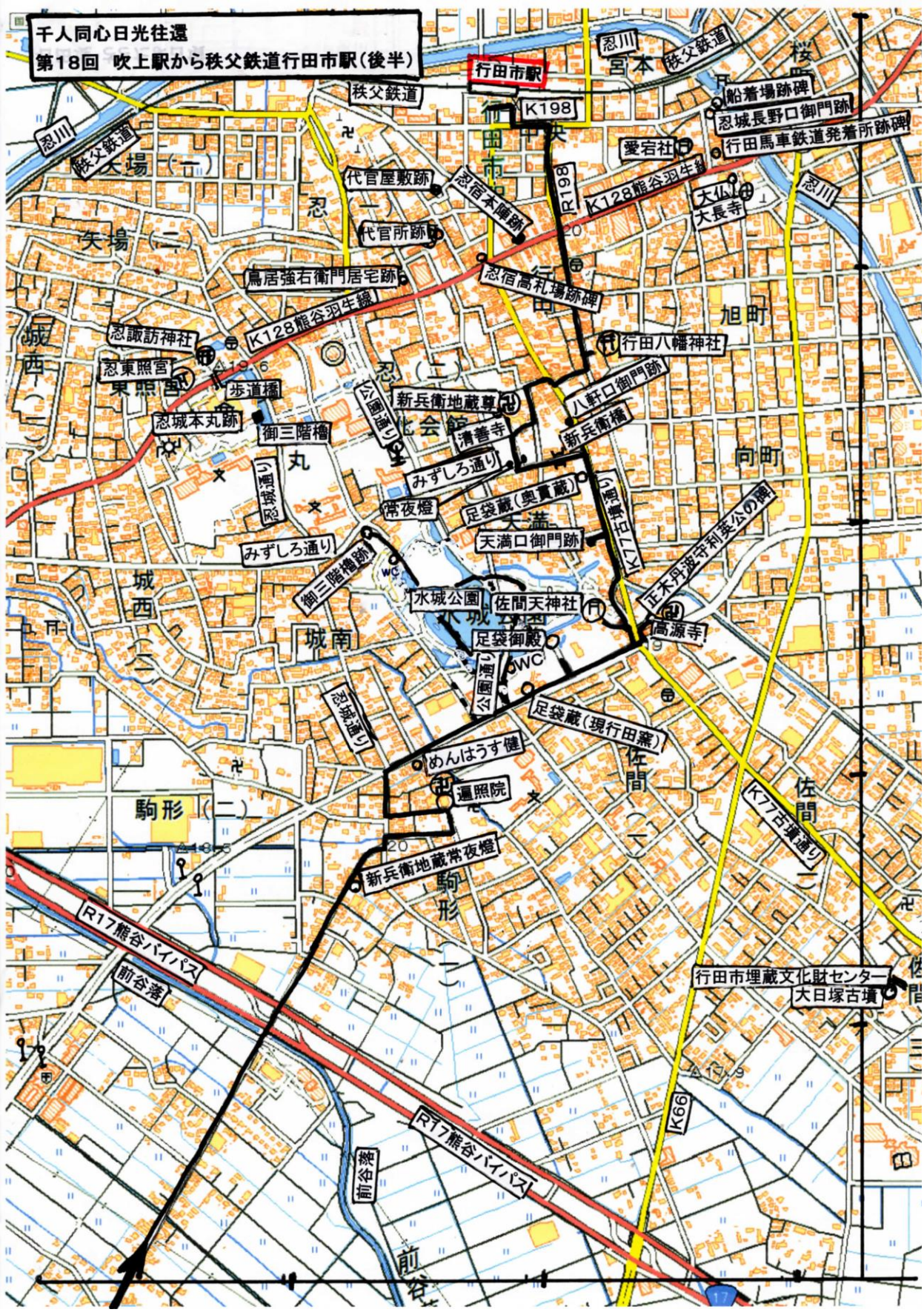




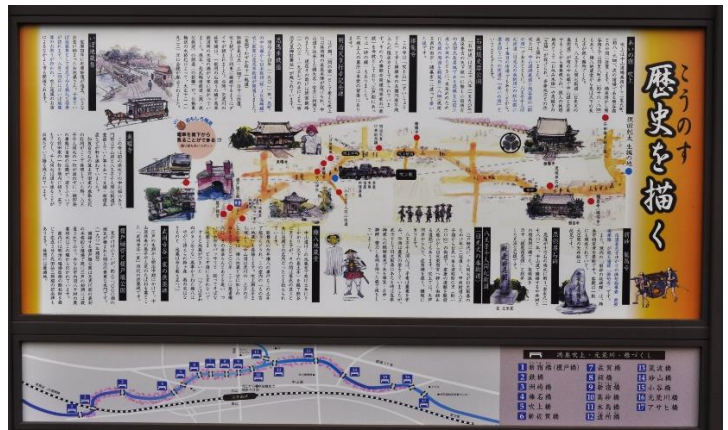
千人同心日光往還
 第18回 吹上駅から秩父鉄道行田市駅(前半)

(旧中山道)

千人同心日光往還
第18回 吹上駅から秩父鉄道行田市駅(後半)



J R吹上駅に9時40分までに揃ったので、吹上駅北口を9時49分に出発。吹上駅北口のロータリーから西への道を進む。

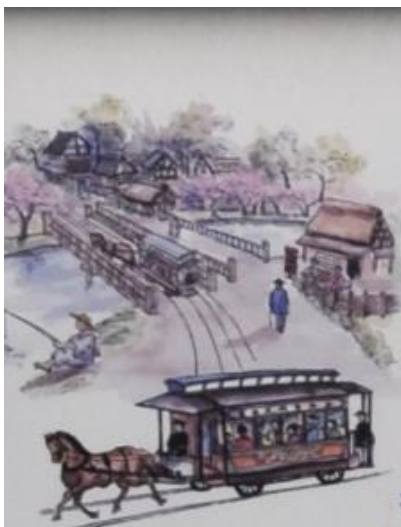


吹上駅北口ロータリーの鴻巣市の歴史案内板には
忍（行田）馬車鉄道

明治三十四年（1901）、忍町の中心部から日本鉄道（現JR高崎線）吹上駅間に忍馬車鉄道が開通した。（全国でわずか4軌道）

路線全長は5.3kmで一日十二往復、吹上駅で上り列車に接続するようにダイヤが組まれました。当時、元荒川の佐賀橋は、一般用の石造りの橋と馬車鉄道用の木造の橋がV字に架かっていました。後年、北武軽便鉄道（現・秩父鉄道）の開通（の影響）や自動車輸送の本格化によって、大正十二年

（1923）に全線が廃止されました。





松山街道踏切で旧街道に会う（9：52）ので右折。110m程先の十字路を左折。



十字路を左折し70m程で道路にぶつかる。この左右の道路が中山道である。左折し、吹上神社の前を通り、旧中山道を300m弱進むと「中山道間の宿」の石柱と説明板がある。



江戸時代の吹上 (東京国立博物館蔵「中山道分間延絵図」より) ●印はおおよその現在地を示しています



東画「吹上」



「中山道駅名石版、文政10年(1827)版

中山道の街道筋にあたる吹上は、鴻巣と熊谷の「あいの宿」として発展した町ですが、江戸期、幕府公認の宿場ではありませんでした。しかし、それにもか、わらず重要視されたのは、日光東照宮を参詣する武士たちの「日光火の番道」と、中山道が町の中央部で交差すること。また、鴻巣宿と熊谷宿の距離が長かったため、その中間に休憩する場所として「お休み木陣」や、馬次きの「立場」を設置する必要があったからです。年に三〇家の大名が江戸や国許へと行列を飾り、多くの文人や豪客たちも足をとどめた「吹上宿」。中でも信濃の俳人小林一茶や加舎白鶴、狂歌師で戯作者でもあった太田南歌、浮世絵師の池田英泉などはそれぞれ得意な作品のこしらえています。そして江戸以来、吹上の名物は「忍のさし足袋」と荒川の「うなぎ」、一服の「目薬」も街道の名品にかなえられていました。この場所は、かつての中山道が鉄道の開通によって分断された地点にあたっています。

吹上「間の宿」

『あいの宿 吹上

吹上は中山道鴻巣宿から二里九町（約8.9km）、次の宿場である熊谷宿との昼間に位置します。鴻巣宿から熊谷宿までは四里八町余（約16.8km）もあり、権八地藏堂から先は久下の長土手が続く難所でした。

また、八王子千人同心街道（日光火の番街道）が宿の中心部で中山道と交差することから重要視され、旅人の休憩地点として「お休み本陣」や馬継ぎの「立場」が設けられ、多摩地方との往来でも賑わいました。

吹上は、中山道鴻巣宿と熊谷宿の「間の宿」であるとともに、八王子千人同心街道（日光火の番街道）の松山宿に続く十番目の宿場でもあることから、歴史的な二つの街道の「会いの宿」ということもできます』



『大日本沿海輿地全図』第88図武蔵より

図の中央に吹上村・鎌塚村・大蘆村、上部中央に行田・佐間村・忍・阿部〇〇居城、上部左端に熊谷、右下に鴻巣と書かれている。

『大日本沿海輿地全図』は伊能忠敬と弟子によって作られ、「伊能図」と呼ばれ、忠敬没後3年の文政4年（1821）9月4日完成、幕府に献じる。中山道は享和2年（1802）に測量している。

中山道を200m程戻った左側に吹上神社がある。（10：04）

吹上神社 由緒

縁起（歴史）

吹上は、北足立郡の最北端に位置し、その地名については、風で砂が吹き上げるところから生じたも

のとの説がある。古くから集落は中山道に沿って続いており、江戸時代には中山道の熊谷・鴻巣の両宿場の立場が置かれ、更にその地内で中山道と日光脇往還が交わることから、交通の要衝として繁栄した。

『風土記稿』吹上村の項には「山王社 村内上分（かみぶん）の鎮守とす、東曜寺持」「氷川社 小名遠所の鎮守なり 持宝院持」「稲荷社 下宿の鎮守なり 東曜寺持」と、鎮守が三社記されている。このように、江戸時代にあっては、村内を三分し、各々で鎮守を祀っていたが、最も規模が大きかったことから社格制定に際しては日枝神社（神仏分離により山王社が改称）が村社となり、他の二社は無格社にとどまった。更に、政府の合祀政策によって明治四十年四月十六日付で、氷川社と稲荷社は日枝社に合祀され、これに伴い、日枝社は村名を採って吹上神社と改称した。年配の人が当社を「山王様」と呼ぶのはこうした経緯によるものである。

ちなみに、氷川社の跡地は本町二丁目の遠所橋のすぐ南に、稲荷社の跡地は鎌塚二丁目の新宿橋のたもとの所にあり、いずれも祠が建てられている。また、日枝社については、『明細帳』に「宝永六年（1756）七月火災焼失す其後創立年月不詳」との記録が載る。

祭神 大山咋（おおやまくい）命



中山道に戻り、先程ぶつかった道の先、左へ曲がった所の左に「東曜寺」の参道がある。（10：06）



東曜寺



東曜寺は、瑠璃光山寶壽院と号し、真言宗豊山派の寺院。創建等は不詳。
吹上駅北口ロータリーの歴史案内板には

『東曜寺

この寺は間の宿吹上の中心部にあり、門前は中山道と八王子千人同心街道が重複していたこともあって立場・料理茶屋などが軒を連ねていました。

加賀百万石の藩主前田家の参勤交代の行列がここで休憩をしていた際、八王子千人同心の一行が通れずに一触即発の事態に当時の住職が、道をふさいでいた前田家の一行を境内に招き、茶でもてなし、千人同心は道を通ることが出来たという話も残されています』

東曜寺の次の左に入る道の角に「いぼ地蔵尊入口」の石柱がある。(10 : 10)



いぼ地蔵尊

尼僧妙蓮が宝暦4年に建立。現在、毎年8月24日に例大祭が行われる。



直ぐのY字路は右・中山道、左・千人同心日光往還に分かれ道である。千人同心日光往還と中山道が同じ道を通るのは70m程。左に進むと県道307号線にぶつかり、日光往還は県道で遮られる。



右の中山道を進んだ交差点の江戸よりに「間の宿吹上」の石柱がある。(10:12) 左面に「中山道 至熊谷宿」裏面に「鴻巣宿から熊谷宿までは四里六町余(約十六軒)と特に長かったため立場(茶屋や休憩所・宿屋)ができ、「間の宿(あいのしゆく)」として賑わいました。八王子千人同心街道と交わる街道の名所です。

平成二十四年三月 鴻巣市観光協会」左面には「中山道 至る鴻巣宿」とある。



中山道の信号を渡り、右に50m程の駐車場の奥に「明治天皇御駐輦址碑」があり、この駐車場が「吹上茶屋本陣跡」である。(10:23) 一本、道を間違ったため、探すのにウロウロし皆に迷惑をかけた。



徳富蘇峰筆

吹上本町交差点の西側の信号の30m程先の脇往還道を進む。



80m弱進んだ十字路の左右の道は「行田馬車鉄道」の鉄道線跡と思われる。

直進し、元荒川に架かる佐賀橋を渡る。(10:29)



直ぐ左折して元荒川に沿って進む(元荒川の両岸は桜並木でその時期は素晴らしいと思う)と「新佐賀橋」がある。(10:30) 親柱に「忍松山路線」と刻まれている。



新佐賀橋 (土木遺産)

- ・ 竣工 昭和8年(1933年)
- ・ 構造形式 鉄筋コンクリートアーチ橋
- ・ 認定理由 元荒川では珍しいアーチ型の橋で、開腹式アーチ構造が美しく、親柱や高欄に花びら風の装飾が施されている。また、川とのすれあいの場として、ランドマークになっていることが評価された。
- ・ エピソード かつて行田市にあった陸軍演習場の視察に訪れる皇族が橋を渡るため、豪華な外観に仕上げられたと伝えられている。



千人同心日光往還道・忍松山線は、ここ新佐賀橋から水城公園辺りまでは、ほぼ行田馬車鉄道路線を通る。



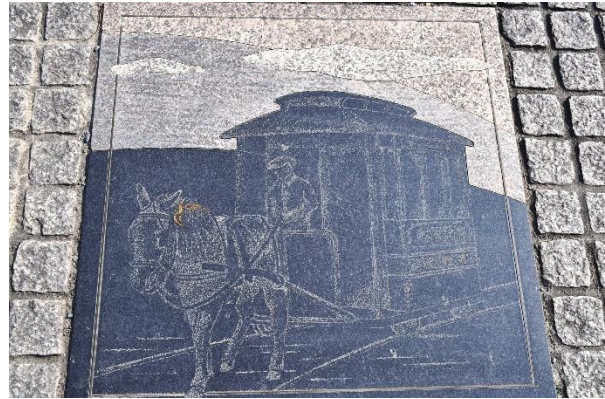
街道は、新佐賀橋から300m程の国道17号線を横切って直進するのだが、信号がないため、左の鎌塚交差点で国道を渡り右折して街道に出て左折。直ぐ先で、鎌塚交差点からの道に合流する。



合流地点から250m強の左手に参道に鳥居が林立（20基以上）した「本倉稻荷」がある。（10：43）



更に250m程の橋の手前から行田市となる。（10：48）橋（がんがら大橋）が架かる河川は「がんがら落（おとし）」と言い、かつては「雁柄落」と表記されていて、下流で「前谷落」に合流する。「落」とは、農業排水路のことで、「落」の名の付いた河川は埼玉県に多い。



がらがら大橋の中程に「行田馬車鉄道絵」のプレートが埋め込まれている。



上越新幹線を潜るとY字路となる。右への道が行田馬車鉄道路線、街道も右への道である。ここからは馬車鉄道路を進む。

前谷落、国道17号線バイパスの手前で休憩を取る。(11:08~15)



休憩後、前谷落を国道17号線熊谷バイパスを横切って進む。



前谷落

バイパスから300m程の右側に「新兵衛地蔵常夜燈」がある。(11:23) (もう1基は清善寺にある。) 新兵衛地蔵尊については、「清善寺」で述べる。



右からの道を合わせて左に進み、20m程の右に「遍照院」への看板があり、従って右折。140m弱で

お寺にぶつかる。その左に「遍照院」の入口参道があり、立派な山門があり、その先に薬師堂がある。
(11:27)



遍照院

遍照院は真言宗智山派の寺院で、医王山常福寺と号す。平泉城主藤原秀衡が守り本尊の薬師如来に心願を立て祈ると快癒し、後夢想によって薬師如来を相州鎌倉に移そうと牛車に載せて向かわせたところ当地で牛が亡くなったため、仏縁の地として創建された薬師堂の中心寺院。駒形薬師さまとして知られている。



遍照院の縁起 (境内に掲示)

遍照院と薬師如来の由来

遍照院は、寛仁年間(1020)の草創といわれ、もとは山城国醍醐三宝院末で、延宝三年(1675)御室御所仁和寺の直末にかわり、秀啓代に檀林格となり、8ヶ寺の本寺として、寺領25石の御朱印寺であった。

境内の薬師堂はじめ本堂、大塔、庫裏、客殿、鐘楼、山門、仁王門の七堂伽藍や寺内の東福坊、宝蔵坊、東之坊、中之坊、西之坊、観音寺の六坊は、たびたびの兵火と火災によって焼失し、のち寛政五年(1793)総ケヤキ造りの薬師堂が再建され、江戸時代の技法を凝らした文化財的な建築様式である。

また、堂内に安置の薬師如来坐像は、行基菩薩が御彫刻で、奥州平泉城主藤原秀衡卿の守護仏とも伝わり、像高86センチ桧木の寄木造り二重円光飛天光背、平安後期中葉(1100)の製作と推定され、温容端麗な藤原仏の代表作である。

寺号・・・医王山常福寺遍照院梅本坊 (開山慶儀)

宗派・・・真言宗智山派 総本山京都智積院

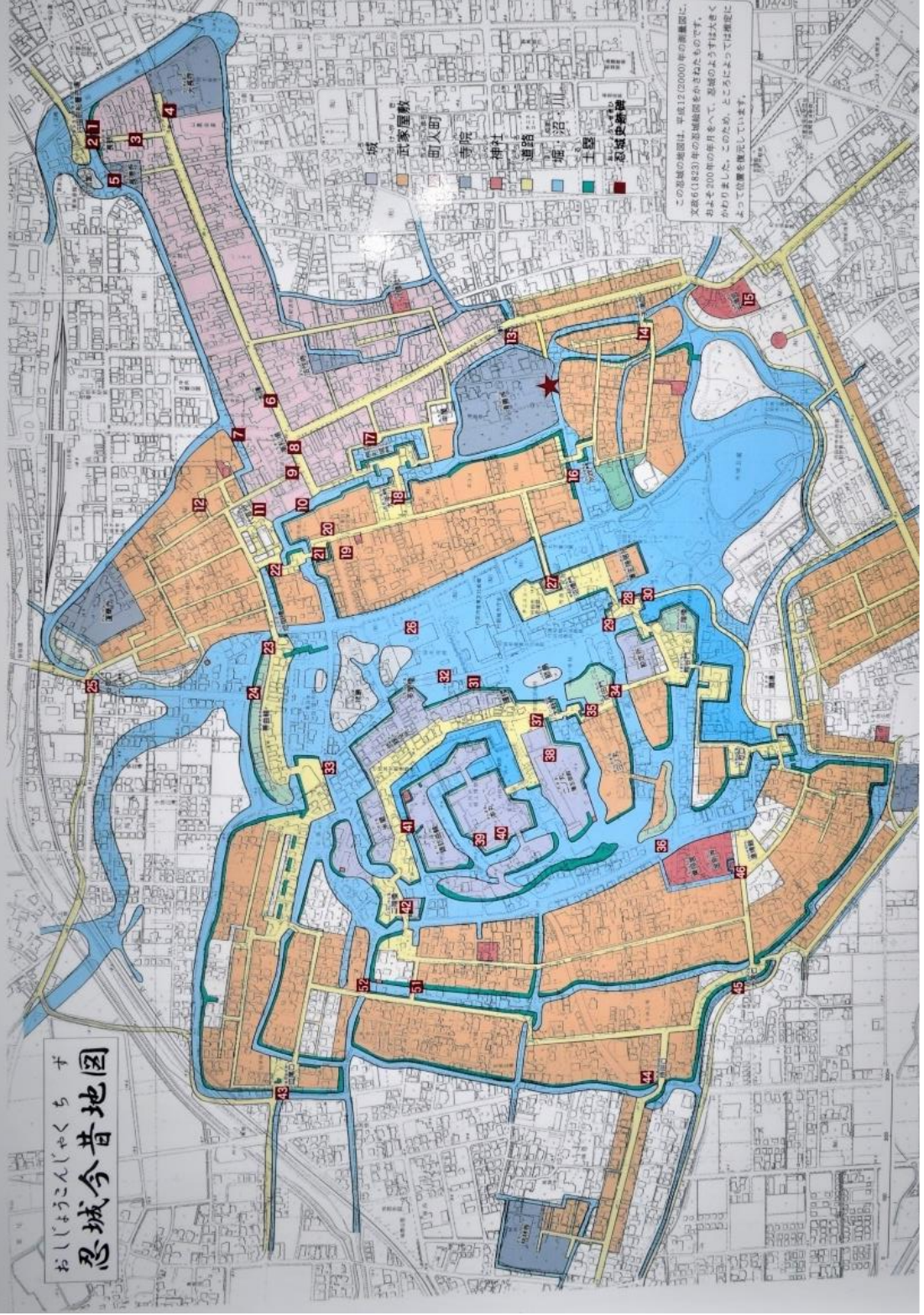
本尊・・・薬師如来 (大日如来)



薬師堂の脇から西へ向かう小路を110m程進み、突き当りを右折。

忍城史跡碑

Historic-Relics Monument of Oshi Castle



右上から

1. 行田町 船着き場跡。
 2. 忍城十五門の内長野口御門跡。
 3. 行田馬車鉄道発着場跡。
 4. 大露仏跡。
 5. 長徳寺跡。
 6. 御本陣跡。
 7. 蘭法 河津省庵先生診療所跡。
 8. 高札場跡。
 9. 行田学校分教所跡。
 10. 田山花袋 田舎教師 ゆかりの料亭。
 11. 代官所跡。
 12. 代官町 代官屋敷跡。
 13. 忍城十五門の内八軒口御門跡。
 14. 忍城十五門の内天満口御門跡。
 15. 佐間学校跡。
 16. 忍城十五門の内向吹御門跡。
 17. 忍城大手門外升形城門跡。
 18. 大手御門跡。
 19. 行田兵衛尉館跡。
 20. 忍警察署跡。
 21. 忍藩家老鳥居強右衛門居宅跡。
 22. 北谷学校跡。
 23. 地獄橋跡。
 24. 帯曲輪跡。
 25. 忍城十五門の内谷郷口六つ門跡。
 26. 忍町尋常高等小学校跡。
 27. 忍城十五門の内沼橋御門跡。
 28. 忠堯侯忠国侯隠居所跡。
 29. 培根堂洋学館国学館之跡。
 30. 三重櫓跡。
 31. 忍の時鐘楼跡。
 32. 多門櫓跡。
 33. 幕府預り米倉 武器役所跡。
 34. 勘定所跡。
 35. 忍城十五門の内成田御門跡。
 36. 忍城三の丸城代家老屋敷跡。
 37. 忍城十五門の内太鼓門跡。
 38. 二の丸跡。
 39. 忍城御本丸跡。
 40. 行田電燈株式会社跡。
 41. 忍城十五門の内諏訪曲輪御門跡。
 42. 二重櫓跡。
 43. 忍城十五門の内皿尾口御門跡。
 44. 忍城十五門の内持田口御門跡。
 45. 忍城十五門の内大宮口御門跡。
 46. 藩校進修館跡。
 51. 縁切橋跡。
 52. 涙橋跡。
- 47～50は地図範囲外。

100m弱の信号交差点を右折する。(交差点を横断し、忍城通りを直進すると780m程で忍城) 右折してすぐ先の「めんはうす健」で昼食。(11:37～12:12)



食事後、南大通り進む。次の交差点を左折。公園通りから水城公園に入る。



両側池の中道を進み、「御三階櫓跡」石柱を見る。(12:28)、



公園通りを東に渡り、南大通りに出て左折。直ぐに木造の足袋蔵がある。足袋蔵は昭和初期に建てられた足袋原料倉庫である。(12:42)



足袋蔵（現行田窯）

木造2階建てのこの建物は、元は「徳国（ほこく）足袋」の商標で知られた荒井八郎商店の足袋原料倉庫で、昭和初期に建設されたものと思われます。

同商店の手を離れた後にこの場所に曳家され、東半分が取り壊されましたが、現存する数少ない木造の足袋蔵として貴重な存在です。現在は陶芸工房として再活用され、「行田窯」となっています。

次の交差点・高源寺は南大通りと右・埼玉古墳公園、左・行田市駅への古墳通りが交わる所で、古墳通りを渡り左折すると15mの右に「高源寺」がある。(12:46~52)



高源寺

高源寺は、山号を天真山といい、宗派は臨済宗円覚寺派。本尊は阿弥陀如来。



山門の横に「正木丹波守利英公の碑」がある。

縁起（境内の案内板より）

往古、行田市は忍藩として隆盛をほこっていたが、天正十八年(1590)、豊臣秀吉の小田原城攻めと同時に石田三成軍の二万にも及ぶ軍勢により忍城は水攻めを受けた。(注：忍城水攻め・石田堤については次回で参考資料を記述)

忍城佐間口の守将「正木丹波守利英（新編武蔵風土記稿では勝英と表記している）」は奮闘し城も破られることはなかったが、小田原城での籠城に参戦していた忍城主成田氏長が敗れたため止む無く忍城は開城した。

この戦いで丹波守は無常を悟り、水攻め彼我戦没者の霊を弔わんと発心し、武士を捨て、この佐間の地に高源寺を開基した。

開山に守天昌意和尚を迎え、一心に菩提を弔い、翌天正十九年二月（新編武蔵風土記稿では六月）二日に没した。

このことは、和田竜著『のぼうの城』に活写されている。(後略)

公園通りを信号で渡り右折して40m程の斜め左に入る道を入ると、直ぐ左に「天神社」の門がある。

(12:53~58)

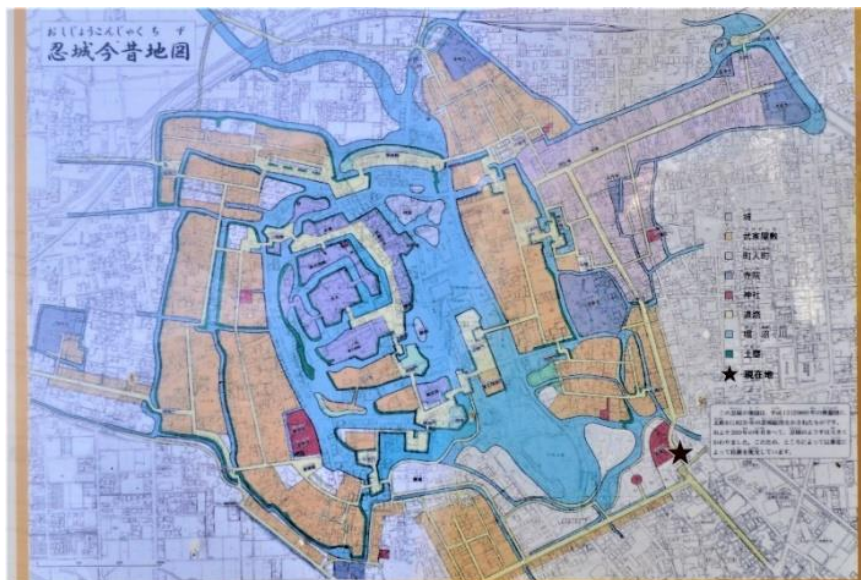


「佐間天神社」の由来（境内掲示板により要約）

佐間天神社の創建は、成田氏15代目忍城主成田親泰が、延徳三年(1491)忍城築城の折、谷郷春日神社西（忍城の北の忍川の北に宇谷郷がありそこに春日神社がある）を城の外堀へ川の水を導水する際の取水口とし、天神坊を出口としたと伝えられていて、その天神坊を「慈眼山安養院」とし、その守護神として天神社を勧請したのが始まりという。



神額に「天満社」とある神門は、安政三年(1850)の大火で類焼したが、ここで止まった為、「火防の門」と呼ばれるようになった。



右下の★印が佐間口・現在地

この天神社のある場所は「佐間口」といわれ、天正十八年(1590)に石田三成らの軍勢が忍城を攻めた際、忍城主成田氏の家臣正木丹波守利英がここ「佐間口」の守りを固め死闘を繰り広げたと伝えられているが、「佐間天神社」付近がその「佐間口」にあたり、正木丹波守利英の屋敷も当地にあったと伝えられている。



神門を潜ると参道は右に折れ、鳥居、狛犬、4基の燈籠の先に本殿がある。旧本殿の創建時期は不明だが、享保五年(1720)十二月、京都唯一神道、吉田家より「正一位天満天神」の神格を与えられ、文化十年(1800)八月二五日、本殿が再建された。明治十一年に拝殿を再建した。

拝殿の右に緩やかにカーブ参道に赤い奉納鳥居が並ぶ「伊奈利神社」があり、本殿の裏には、「三峯神社」、その左に日露戦役記念碑等石碑が、その左に「慈眼山安養院跡」の碑と歴代住職の墓所がある。

神門を出て左へカーブして進むと古墳通り(県道77号線)に合流する。県道を90m程進んだ左の道を30m程入った左側に「天満口御門跡」石柱がある。(13:01)



県道に戻り左折して進むと「足袋蔵歴史のまち」説明板がある。

足袋蔵歴史のまち Town of Tabigura

蔵めぐりモデルコース
Model Course of Visit in Gyodo
Town of Tabigura

足袋蔵と行田市の近代化遺産

行田市では江戸時代中頃から足袋づくりが大盛況で、最盛期の昭和13年(1938)には年間約8500万足、全国シェアの約8割を生産する“日本の足袋のまち”として繁栄していました。

市の中心部には、足袋蔵と呼ばれる足袋の商品倉庫を中心に、ソコギリ屋根の洋風足袋工場、北側一帯だけを蔵造りにした行田独特の店蔵や住宅など、かつての栄華を伝える足袋産業関連の近代化遺産が数多く残されています。

行田市ではこうした近代化遺産の保存が進められており、今津印刷所店蔵・主屋・土蔵(今津蔵)、旧忍町信用組合店舗が市指定文化財に、旧小川忠次郎商店店舗及び主屋(忠次郎蔵)、武蔵野銀行行田支店店舗、十方ふくさや行田本店店舗、旧荒井八郎商店事務所兼主屋・大広間棟・洋館(和牛焼石「影々亭」)、大澤家住宅旧文庫蔵(大澤蔵)などが国登録有形文化財に指定・登録されています。

また、足袋蔵まちづくりミュージアム、足袋とくらしの博物館、藍染め体験工房「絞染舎」、足袋蔵ギャラリー、Ca'は隣屋、足袋蔵パン工房、奥貫蔵(そば店「あんど」)、翠玉堂(パン屋)、行田菜などさまざまな形での再活用も行われています。

大澤家住宅
旧文庫蔵

旧荒井八郎商店
事務所兼主屋
(和牛焼石「影々亭」)

足袋蔵歴史のまち

行田市教育委員会

説明板の前に足袋蔵（奥貫蔵）がある。（13：06）今は蕎麦処「あんど」。



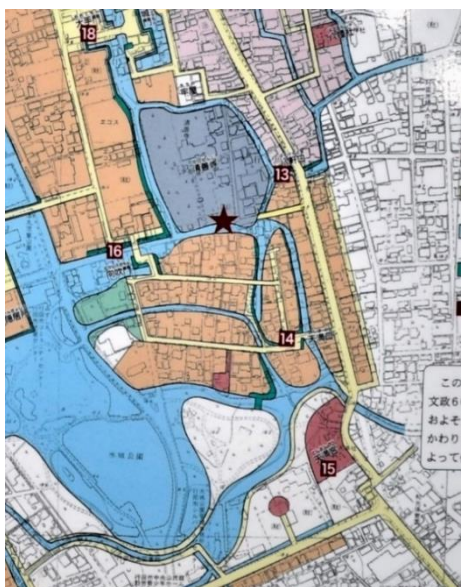
奥貫蔵

この間口9間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「ほうらい足袋」の商標で知られた奥貫家が、大正～昭和の初め頃に建設したと伝えられる足袋蔵です。「ほうらい足袋」の三代目奥貫芳太郎は、奥貫3兄弟の末弟として知られ、「行田足袋研究会」の幹事として、足袋産業の発展に尽くした功労者でした。全盛期の行田の足袋産業の隆盛を象徴する大型で重厚な足袋蔵です。



足袋蔵奥貫蔵から県道77号線を100m程進んだ左手に「八軒口御門跡」石柱がある。（13：08）

県道77号線を60m程戻った信号交差点を右折し50m程に「新兵衛橋」がある。（13：11）



今は水路は埋め立てられ、欄干だけが地上に出ている。この通り（みずしろ通り）は昭和初期に行われた忍沼（水城公園）の埋め立て工事の際に造成された道路で、『忍城今昔地図』を見ると新兵衛橋がある位置（左図の★印の右）には水路があったことがわかる。





新兵衛橋から70m程の右側に「清善寺」がある。参道入口に新兵衛地蔵尊の常夜燈があり、石垣に「平田山」「清善寺」の石柱がある。山門の奥に本堂がある。





清善寺（縁起は境内の掲示板より）

清善寺は、曹洞宗成田龍淵寺（注：成田氏の菩提寺）の末寺で、平田山清善寺と称し、本尊は釈迦如来三尊仏である。当寺は、永享十二年（1440）、当地の豪族成田刑部少輔顕忠の草創といわれている。

顕忠は、仏道に帰依し清善齋全中と号し、その館は平田精舎といわれていた。永正十六年（1519）に没したが、時の城主成田氏十五代親泰は、その死を悼み、一寺を建立して平田山清善寺と称した。

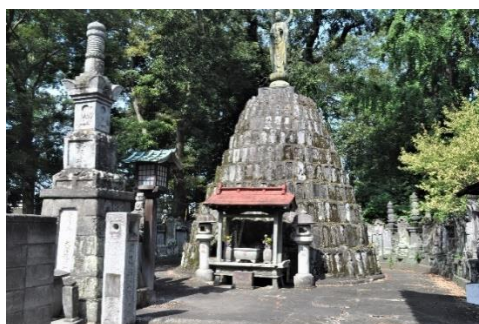
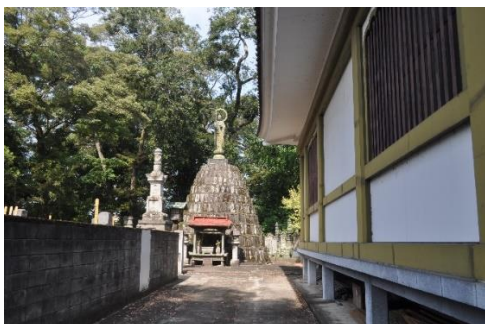
その後、成田氏十六代長泰によって、天文二年（1533）再興され、翌年成田龍淵寺五世宗佐和尚を迎え開山とした。



境内左奥に「新兵衛地蔵尊」が祀られている。

新兵衛地蔵尊（石碑より）

新兵衛地蔵尊建立の偉業は、忍戒大澤龍次郎氏の菩提心に依って成る 氏は立志伝中の人 名は東都に挙げるも仏道に帰依して愛郷の念愈々深し たまたま当山に累積する無縁諸佛を見るに忍びず 先考新兵衛翁の報恩追善の行として私財を抛（なげう）ち 此處に無縁塚を建立 地蔵菩薩の尊像を奉安し自ら外護者となりて萬霊を供養す 時に昭和六年五月八日当山三十二世代なり 当時世は経済恐慌に襲われ 我が町も又失業する者少なからず 此の時に当たり新兵衛地蔵尊建立の大工事は正に早天の慈雨に似たり 思うに是れ地蔵菩薩の行願を衆生に分たんとする氏の菩提心の発露と言うべし 年々五月八日を大祭と定め遠近の信仰を集めて今日にいたる





新兵衛というのは、行田市出身で大澤証券会社（現（株）SBI証券）を設立した大澤龍次郎氏の亡父大澤新兵衛のこと。龍次郎氏は昭和6年（1931）日本中が不景気の中、失業事業対策として清善寺の無縁仏整備を提案し、無縁塔を造立した。その頂に地蔵を奉安。地蔵が手にしている宝珠の中には、亡父新兵衛が所持していた仏像が入っているとのこと。それ故、新兵衛地蔵尊と呼んでいる。

古墳通り（県道77号線）に戻り左折。最初の信号交差点を右折して直進。50m程の八幡通りを左折。150m程の右側に「行田八幡神社」がある。



行田八幡神社（境内の掲示板より）

当神社は、源頼義・義家が奥州討伐のためこの地に滞陣した折、戦勝を祈願して勧請されたと伝えられています。当初、佐間村田中（でんちゅう）に鎮座、俗に田中（でんちゅう）八幡と称していましたが、天

文中に現在の地に移されました。この時、忍城主成田下総守長泰公は深く当神社を崇敬し、社殿を修補して城下総鎮守と致しました。このことから「城主八幡」また社殿の向きから「西向き八幡」の名があります。

応神天皇・神功皇后を主祭神とし、比売神・大物主神・素戔鳴尊を配祀神としてお祀りしています。現在の社殿は、皇紀二千六百五十年を記念し造営され、平成元年十一月の竣工しました。



水神社



瘡守(かさもり)稲荷社



目の神社(めのかみしゃ)



戌亥八幡(戌:安産・子育て、亥:健康・立身出世)

境内社は他に、八坂社、三峯社、愛宕社、大国主神社、恵比寿神社がある。



御朱印

八幡神社から八幡通りを右（北7方面）へ向かう。途中に立派な石蔵があった。小川源右衛門蔵という。



県道128号線・熊谷羽生線を横切り、200m程の県道198号線を左折し、70m程で行田市駅南口前のロータリーに出る。



秩父鉄道行田市駅に13:45に着く。今日はここまで。

13:56発に乗り熊谷駅に向かう。

以上